

第26回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議

平成 29 年 11 月 21 日（火）

大谷山荘（山口県長門市）

（山口県・大田国際課長）

定刻になりましたので、ただ今から「第 26 回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議」を開催いたします。私は、本日の会議の進行を務めます山口県国際課長の大田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の会議は、お手元のパンフレットの日程に従って進行いたします。

まず、議事に入ります前に、これまでの知事会議の経過につきまして、山口県観光スポーツ文化部長の小玉典彦からご報告申し上げます。

（山口県・小玉観光スポーツ文化部長）

山口県観光スポーツ文化部長の小玉でございます。日韓海峡沿岸県市道交流知事会議のこれまでの経過について、簡単にご報告いたします。お手元の資料、知事会議パンフレットの 3～6 ページをご覧ください。

この会議は 1990 年 10 月、長崎県対馬で開催された九州北部 3 県、具体的には、福岡、佐賀、長崎の知事懇話会において、韓国南岸地域との交流推進を提案され、その後、現在の 4 市道が同意した中でスタートいたしました。

第 1 回会議は 1992 年 8 月、済州道において開催され、1999 年に、佐賀県において開催された第 8 回会議から山口県が新たに参加し、現在の 8 県市道の形で交流を進めてきております。長い年月の間、日韓 8 県市道のそれぞれの努力により、交互に会議が積み重ねられ、一昨年 2015 年の第 24 回会議からは 4 巡目に入っております。これまで両地域間の相互理解と友好関係の推進を図りながら、両地域の発展と繁栄に資するため、水産、環境、観光、青少年交流など、幅広い分野においてさまざまな日韓共同交流事業を展開してまいりました。

ここで、前回会議の様子や、さらに共同事業の取組、さらに 8 県市道の紹介を簡単にまとめた映像がございますので、スクリーンでご覧いただきたいと思っております。

—映像上映開始—

昨年 2016 年、第 25 回の会議は、11 月 25 日、大韓民国・済州特別自治道で開催されました。

共通テーマは、「再生可能エネルギー関連事業及び地域発展」。太陽光、風力、海洋、水素など、各県市道の地域の特長を生かした幅広い再生可能エネルギーの取組について発表されるとともに、活発な意見交換・情報交換が行われました。また、会議翌日には、済州特別自治道の風力団地等の視察も行いました。

会議でのさまざまな意見や提案を踏まえて、担当者同士の意見交換、情報交換を行う会議を今年 9 日、10 日の 2 日間、釜山広域市において開催したところです。

続いて、分野別に取り組んでいる共同事業についてご紹介いたします。

まずは、「水産関係交流事業」です。この事業は、1992年、済州道で行われた第1回知事会議において合意され、1993年から実施されています。水産関係交流会議を毎年開催するとともに、魚類種苗の共同放流や、漁業者の親睦交流などに取り組んでいます。魚類種苗の共同放流では、日韓共通の魚種の資源維持と増大を図るため、稚魚の放流を行っています。今年度は、福岡市東区志賀島沖でトラフグ2,000尾の放流を行いました。

また、漁業者の親睦交流では、漁業者が互いの国を訪問し、漁業者同士の交流を行っており、今年度は、済州特別自治道の漁業者が佐賀県を訪問し、日韓両国の漁業の状況や漁業者の活動に関して、日本側4県の漁業者と意見交換を行い、親睦を深めました。これまでに、23回の稚魚の共同放流事業、漁業者の親睦交流事業を実施しており、日韓両地域間の相互理解と友好を深め、両国の水産業の振興に貢献しています。

次に環境技術交流事業です。この事業も水産交流事業と同じく、第1回の知事会議での合意に基づき、1993年度から実施しています。日韓両地域が一体となって連携協力し、環境技術交流会議の開催、両国間で関心の高いPM2.5や酸性雨など水や大気に関する共同調査、環境シンポジウムの開催や環境技術職員の交流などさまざまな共同事業を展開しています。

共同調査では、これまでの25年間で9つの調査報告書をまとめるなど、日韓両地域における環境保全技術の向上や広域的な公害防止等に大きく貢献しています。今年度は、低濃度であっても長期的な曝露により健康影響のおそれがある有害大気汚染物質の共同調査を行っており、年度内に報告書をまとめることとしています。

次に、「広域観光協議会事業」です。広域観光協議会は、1993年に佐賀県で開催された第2回知事会議において「日韓広域観光ルートの促進開発」が共同声明に盛り込まれたことを契機に、両地域への誘客促進と相互交流の促進を目的として、日韓両地域に組織されました。1994年の観光ルート視察団を相互派遣以降、毎年開催する会議に基づき、海外旅行博覧会への共同出展や、旅行会社の招請事業等を毎年実施しています。

今年度の共同事業は、地理的にも比較的近い東南アジア地域の他、長期滞在が期待できる欧州地域を対象として、現地での発信が期待できる報道関係者等を両地域に招いた視察ツアーの実施です。広域観光協議会事業は、国の枠を超えて、日韓海峡沿岸にある地理的共通点や相互交流の歴史、さらには、両地域の豊かな観光資源の魅力を一体的に発信できることから、観光振興において大変貴重な広域連携事業となっています。

次に、「日韓海峡海岸漂着ごみ一斉清掃事業」です。この事業は、2009年、山口県で行われた第18回知事会議において山口県知事が提案し、2010年から開始されました。毎年、韓国の海の日である5月から、日本の海の日までの期間を実施期間に定め、8県市道が海岸の環境美化に向けた意識啓発と実践活動を促進するために、一斉清掃に取り組んでいます。これまでの8年間の延べ参加者は、645,498人、回収したごみは2万2,074トンにのぼり、日韓海峡の美しい海づくりと美しい海を育む意識の啓発に貢献しています。

最後に、青少年交流事業の一環として取り組んでいる「グローバル人材育成事業」についてです。この事業は、2013年に福岡県で行われた第22回知事会議において小川洋福岡県知事が提案し、昨年2016年から開始されました。「互いの違いや多様性を認め尊重し合う気持ちを養うと同時に、世界の人たちとしっかり向き合っていける高い志や幅広い視野を有する人材の育成」を目的とし、日韓海峡沿岸8県市道の中学生を対象に実施しています。今年度は、

参加者 40 名が 5 日間にわたり、ホームステイとその受入、文化体験等を行った後、全員が釜山広域市に集まり、体験を発表しあうフォーラムを開催しました。

事業終了後のアンケートでは、ほぼ全ての参加者が、今後も相手国と「積極的に交流していきたい」と回答し、相手国のイメージが変わった、もっと相手国のことを知りたい、将来相手国に住んでみたくなった、といった感想が多く聞かれるなど、両国の将来を担うグローバル人材の育成の面において大きな効果が見られたと考えています。

このように、知事会議でのさまざまな議論を受けて、幅広い分野で共同交流事業を実施しており、日韓海峡沿岸地域の友好親善や地域発展に大きな役割を果たしているのです。

—映像上映終了—

以上で、経過報告を終わります。本日は、よろしく願いいたします。

(山口県・大田国際課長)

それでは、ただ今から、知事会議の議事を始めさせていただきます。

まず、議事に先立ち、山口県知事の村岡嗣政が歓迎のご挨拶を申し上げます。

(山口県・村岡知事)

ヨロブン、アニョハセヨ。

皆さん、こんにちは。山口県知事の村岡嗣政です。日韓海峡沿岸の知事、市長様をはじめ、多くの皆様のご来県を心から歓迎申し上げます。

今年で 26 回目を迎える歴史ある日韓海峡沿岸県市道交流知事会議を、ここ山口県で開催できることを大変喜ばしく思います。

知事会議では、地域の課題や今後の展望などを議論すると同時に、先程映像でもご覧いただきましたけれども、合意した事項は、水産、環境、観光、青少年交流などさまざまな分野で共同交流事業として実を結び、多くの実績を積み重ねてきたところでございます。

こうした中、先日、日韓交流を積極的に推進している我々にとって、大変喜ばしいニュースがございました。私達の交流の礎とも言えます朝鮮通信使に関する記録が、ユネスコの世界記憶遺産に登録されたことであります。これは、朝鮮通信使の歴史的価値を高める機会であることはもとより、同時に、私は今一度、日韓交流を朝鮮通信使に学んで、未来志向の交流を考えていく契機にしていくべきではないかと考えております。

朝鮮通信使は、寄港した各地で文化、学术交流などのさまざまな分野において、対等な立場で相手を尊重した交流を進め、相互理解を深めてきました。

私は、この「対等な立場で相手を尊重した交流」の精神を今一度、胸に刻んで、各県市道の知事・市長と地域発展への想いを共有して、日韓海峡沿岸地域、さらには日韓交流の未来を共に切り拓いていきたいと考えております。

さて、今年の知事会議のテーマは「インバウンドの取組について」です。インバウンドは、今後の地域発展の鍵を握る重要な取組と考えております。各県市道の知事・市長の皆さんと、インバウンド拡大に向けた相互協力や連携、ネットワークづくりなどについて、対等な立場

で相手を尊重した議論を深め、実りある知事会議にぜひしていきたいと考えております。

終わりに、日韓海峡沿岸8県市道のますますのご発展と、本日までご出席の皆様のもうますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(山口県・大田国際課長)

それでは、議事に入りたいと存じます。

議長は、開催県の知事が務めることになっておりますので、山口県の村岡知事が議長を務めさせていただきます。村岡知事、よろしくお願いいたします。

(山口県・村岡知事)

それでは、さっそくはでございますが、会議日程に従いまして、進めさせていただきます。順次、各県市道から共通テーマの「インバウンドの取組について」、そして、自由テーマについて発表していただき、その後、討論をすることといたします。

最初に、済州特別自治道のウォン・ヒリョン知事、よろしくお願いいたします。

(済州特別自治道・ウォン知事)

皆さん、こんにちは。済州特別自治道知事のウォン・ヒリョンです。尊敬する日韓海峡沿岸県市道の市長、そして、知事の皆様、昨年11月済州でお会いし、いつの間にか1年が過ぎました。またこうやって健康な姿でお会いできましたことを、大変うれしく思います。また、本日参席された韓国側の道知事、権限代行の方々にもお会いできて光栄です。この4名のうち1人が総理になられ、党の代表になられた関係で、本来おいでにならなければいけないところを、権限代行が参加されたというところをご了承ください。そして、今回の開催のために、さまざまなご尽力を頂きました県知事、県民の皆様方に、感謝と尊敬の言葉を申し上げたいと思います。

それでは、これから済州観光、特に外国人観光客誘致についての施策について申し上げます。

まず、済州観光の基本的現況でございます。現在の人口は66万人。毎年、1万人ずつ増えているところでございます。面積は1,848㎢です。位置としては、韓国、日本、中国、北東アジアの要衝地に当たります。人口、100万人を超える60余りの大都市が、飛行機に乗りますと、済州から2時間の距離にございます。

また、済州の旧名は「耽羅国」と言います。韓国の本島と離れ、独自の中国、日本と交流をし、発展してきた独特な歴史を持っています。

現在の済州は、韓国の政府が指定した世界平和の島となっております。済州平和フォーラムの定期開催など、さまざまな国際交流プログラムが行われてきました。国際平和交流の拠点都市として成長してまいったわけです。

また、済州は美しい自然環境を持ち、ユネスコから2002年に世界生物圏保全地域、2007

年には世界自然遺産、2010年には世界ジオパークとして認められました。2011年には、世界の自然景観ベストセブンに選ばれました。ユネスコが定めたラムサール条約湿地にも多数保有している場所でもあります。このように、ユネスコが国際保護地域として複合的に指定されているのは、世界においても済州1カ所だけにあります。

済州観光におけるSWOT分析ですけれども、強みについては、北東アジアにおける地理的な要衝地、恵まれた自然環境、また、電気自動車や再生エネルギーなどの観光と直接連携が可能な新産業の成長ポテンシャルを持っています。また、島という制限性によってアクセスの限界であったり、受け入れ体制の不十分さが弱点として挙げられています。また、受け入れのプログラムがまだ不十分であるといった点が指摘されています。

これから、ユネスコの人類の無形文化遺産であります、海の海女文化、国連の世界食糧機構であります、世界重要農業遺産である畑の石垣など、文化コンテンツを島ならではの関心を集めるといったところに機会を作りたいと思っています。

中国のサード配置による韓国観光中止令などによって、10カ月程度、事実上、中国人観光客が途絶えた傾向にあります。こういった外部的環境要因による脆弱性でありますとか、特定国家による市場の偏り、格安観光によるもの、また、島という特性による観光の量的限界などが脅威の要因として左右しています。

今の済州観光の現況ですが、今現在、2013年には、島の観光地として1,000万人の訪問客を迎えました。1,500万人が済州を訪問したという形になっています。内国人、外国人、引き続き増加傾向にありまして、1,200万人が内国人、300万人が外国人と考えたらいいと思います。2015年にMERSが起きたことで、外国人がMERSの一件によって減少し、また、中国政府による韓国観光禁止措置などによって、昨年と比較しますと、大幅に減少しております。

済州は、これまでの発展を見ますと、済州の自然環境、独特な文化を基盤として、急速な量的成長を遂げてまいりました。しかし、この量的成長の陰には、ごみや上下水道などの受け入れ能力の限界による問題、また、特に中国大型旅行者によって、格安団体観光による、逆に、手数料を与えながら誘致するという形態になっておりますので、地域経済に与える好循環の効果が限界に達しているなどといった状況があります。その点から、済州は持続可能で公正な観光を行うために、量的なものよりも価値、そして内実を重要視する、品質を重要視する観光を拡大するために最善を尽くしています。

済州観光の理念は、質的観光であります。政策に焦点を合わせ、これまでの量的なものを全面的に廃棄し、量的指標は集計を取っていません。質的なものに重点を置いております。

済州道の価値を極大化し、未来がより発展的に醸成するための内容として、持続可能な質的観光、中国に依存する一辺倒の観光形態から脱却するように、また、一度済州に訪問した方が、もう一度満足してリピートしてもらうような、独特な特性を生かした地域密着型の観光産業型コンテンツの開発、最後には、今回の中国政府の韓国観光制限令に対しても、そういったものがあっても、きちんと管理できるような危機管理システムを構築するようになりたいと考えています。

特に、済州観光においては、巨大化する観光客数の増加、人口の入流によってごみの増加、上下水道の過剰な処理容量、受け入れ能力の問題がもっとも解決が急がれる課題となっております。ですので、生態系の造成など、100万人以上の受け入れが可能な上下水道のインフラ

を2025年までに構築いたします。ごみ処理施設の高度化を果たす計画を立てております。市場の多様化、グローバル化に関して、国際自由都市を目指しております。道民たちの親切な心あるもてなしで迎えられるように、また、多文化に対する認識改善に力を注ぎ、さまざまな多様化した観光客に満足を与えられるような事業を推進していきたく思います。

そのために、さまざまなプロジェクトを通して、今現在、1%程度の文化予算を投入していますが、これを3%に上げて、年間500億ウォン程度を集中的に投入しております。済州道が持つ課題の中で、空港と公安は、空と海を開き、国の関門を拡張するために必要なインフラであります。現在、済州空港は飽和状態にあります。時間当たりの飛行機が34台以上の離着陸をしています。それを増やそうにも、滑走路の確保ができませんので、限界の達しているわけです。ですので、2015年に、空港をもう1つ新設いたします。第2空港を建設するための計画を推進しています。

また、一方、観光は「スマート観光」を推進しています。スマートフォンだけあれば、予約から決済まで全てが解決するという点であります。スマート観光を本格化させるための計画を推進しております。例えば、公共Wi-Fiであったり、ビーコンなどを通じて、スマート観光、オープンプラットフォームを構築する計画です。今現在、公共交通、バスについては、全てWi-Fiを設置いたしました。また、2019年までには、公共Wi-Fi5,000カ所、ビーコン8,000個を設置する予定です。また、このようなプラットフォームによって集められるデータをビッグデータ化して、全ての観光客に対して利便性を提供。観光マーケティング、そして、観光関連の事業者にも、このビッグデータを通じた計画が立てられるように提供をする計画です。

また、済州の交通改変も大きな課題であります。この島において、現在、自動車は45万台登録されています。韓国では、自動車の保有率は済州が1位であります。既に限界点に達しているわけです。ですので、済州の公共交通を10%から20%にまで上げられるように、公共交通の改変を行いました。まず、バス運賃を一律化いたしました。また、バスレーンを導入しました。ですので、タクシーであったり、自家用車はバスレーンを通れないわけです。また、バスの路線を単純化いたしました。それにより、観光客がレンタカーがなくとも、観光地に迎えるように循環路線も新設いたしました。このような基盤施設とともに、このさまざまなコンテンツを作り出すことが急がれています。

その例としては、今年9月オープンした神話テーマパークを挙げるすることができます。コンベンション施設や国際レベルのカジノなどが続々とオープンしています。家族連れが観光客が十分にくつろげるような、文化コンテンツを楽しめるような体験プログラムを複合させた観光施設、プログラムの拡大。また、レベルの高い大型投資事業とともに、外資系の事業者とともにつなげる、連携させるような政策も推進しております。

済州は、特にクリーンな自然環境、ユネスコ自然遺産などを活用した済州スタイルのエコツーリズムを開発。特にジオツーリズムに関しては、人材を活用した、専門解説者を育成しました。また、エコツーリズムやオルレウオーキングなどのプログラム、エコヒーリングツアーなどをテーマとしたツアーコース。また、エコヴィレッジとして、済州ならではの文化体験が可能なプログラムを開発しています。この内容に関して、2006年においては、ユネスコ無形文化財に登録をはじめとして、2014年には、畑の石垣が国連の世界食糧農業機構の世界重要農業遺産に選ばれました。また、2016年11月には、済州の海女文化がユネスコ人類

無形文化遺産に登録されました。地域住民と共に、観光客が調和したもの。例えば、ナイトマーケットでありますとか、さまざまな特徴のあるものを楽しめるようなインフラ、プログラムも早急に実践、実行に移せるように進めてまいり所存です。文化、芸術人の創作エネルギーを文化観光と結び付けて、分け合えるような、楽しめるような講演、展示、体験プログラムなども進めております。

最後に、危機対応に対してであります。2000年代初めですけれども、中国を襲ったSARS、インフルエンザ、最近では、MERSのような新種の伝染病、また、原油高による世界的な経済不況、北朝鮮の核の問題など、さまざまな国際情勢、脅威が発生いたしております。このような危機が発生するたびに克服しながら改善を遂げてまいりました。こういった経験をもとに、体系化を行い、また、別の地域の経験を参考にしながら吸収し、制度化を行い、発展していけるような機会をつくるために、より努力していきたいと思っております。

最後ですが、協力要請事項であります。来年10月3日から5日まで、済州で「世界リーダーズ保全フォーラム」があります。環境分野のリーダーズの対話、専門家のセッション、また、エコツアーなど、さまざまなプログラムが行われる予定です。これはIUCNと提携し、国連と進める大規模な国際フォーラムであります。環境に対する認識を大切に考える、我々8県市道であります。ですので、このフォーラムは、自然の保全、また、自然環境を地域と観光をつなぎ合わせる、共有する国際的な舞台になるものと考えております。どうか皆様、たくさんのご関心、そしてご参加をお願いいたします。希望する皆様には積極的な情報提供をしたいと思います。8県市道のより一層の協力、そして協力し合って発達し、信頼関係をより深めることができることを希望しております。ありがとうございました。

(山口県・村岡知事)

ありがとうございました。

続きまして、佐賀県 山口祥義知事からお願いします。

(佐賀県・山口知事)

まず、盟友の山口県の村岡知事に、最高のおもてなしに対して感謝申し上げます。

そして、先だつての浦項の地震について、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りしております。そして、こちらにも盟友であります、全羅南道の尊敬する李洛淵氏が総理に就任されたというニュースは大変うれしく思いますし、我々のこの会議の成果が韓国政府の中で生かされたらいいなというふうに思っています。

今、ウォン・ヒリョン知事から韓国の危機管理の話がありました。とても大事な論点だろうと思います。特にインバウンドの方が来られたときに、さまざまな危機があります。もちろん、地震も含めた自然災害もあります。そのときに、この8県は、例えば避難の仕方などもスムーズにできるのだという研究なども進んでいくと、これからのインバウンドの増強に対して、とても有効な手だてになるのではないかというふうに、今、聞かせていただきました。

さて、佐賀県がチャレンジしている内容について、若干、ご紹介したいと思います。

まず、佐賀県の外国人宿泊数は、2016年には約25万人ということで、この5年間でいいますと約6倍でありまして、伸び率は全国で第2位です。一番伸びたのが静岡県でした。もともと、あまり収容力のない佐賀県にとってみると、とても大きなことです。そして、この1年間で外国人の移住者という観点からすると、これは日本で一番上昇しております。そういった意味からすると、もともと佐賀県という場所が大陸に近いということもあるのかもしれませんが、今、非常に外国人対応ということが大きなテーマになっているところであります。その中でも、韓国からのお客様は11万人と、当然、最多となっております。

さて、佐賀県ではインバウンドに関しまして、ここに掲げてあります6点の視点を持ってチャレンジしています。佐賀の本物に世界基準を組み合わせる。日常の中にある本物の価値を磨き上げていく。誰もが本物を楽しめる受入環境を充実させる。本物の価値を伝える情報発信。佐賀県民が佐賀に愛着と誇りを持っていく。そして、多文化共生社会の実現を図っていくということでもあります。

まず、チャレンジ①として、佐賀の本物と世界基準のデザインとのコラボレーションに取り組みました。有田焼はもう400年の歴史があるわけでありまして、技術は韓国のほうから伝えていただいたものですが、ヨーロッパを一時期席卷して、非常に大きな売上を上げてきたわけです。これにヨーロッパのデザイナーなどを組み合わせた、世界基準のデザインとのコラボ。逆に言えば、ヨーロッパにはこういった技術がなかったのが、佐賀県の技術とヨーロッパのデザインというのをコラボレーションした作品が、今、非常に好評であります。

続きまして、例えば、この県庁です。今、県庁に多くの観光客が来ていただいています。これは、盟友の全羅南道を訪問した時に、1階ホールが結構楽しめたといいますか、そういったところも参考にさせていただいて、では、うちの県庁はどうやったらいいのだろうかということで、屋上の景観が非常に美しいものですから、アート県庁ということで、九州初の夜景プロジェクションマッピングをやっています。これは時期によって変わります。例えば、12月になりますとクリスマスのスタイルになったりですとか、時期によりまして、さまざまなコンテンツに変えるというわけです。多くのインバウンドの皆さま方が、訪れています。毎日、365日行われていますので、ぜひ、皆さま方にも来ていただきたいと思っております。

そして、右側にあります「大魚神社の海中鳥居」ですが、今日、元乃隅稲成神社を見せていただきましたが、我々のこの鳥居の特徴は、今そこに映っている引き潮の時です。人が通れます。それが満ち潮になりますと、これが海の中に沈みます。そういったところが特徴で、これも非常にSNS辺りで発信されまして、今、人気のスポットになっています。こういったところというのは、村岡知事のところなどとも連携して、やっていったら面白いかなというふうに思いました。

チャレンジ③として、「誰もが本物を楽しめる受入環境の充実」です。これは、佐賀県はもともと外国人専用アプリというものを24時間365日OKということでやっておりまして、非常に評判が高いものです。これは、観光で困ったときだけではなくて、何かトラブルがあった時にも通訳をしてくれますので、とても有効だということでもあります。今、言語をどんどん増やしているところであります。そして、おかげさまで、ソウル便が毎日運行になりまして、九州佐賀国際空港も非常に今、伸びています。現在、ターミナルビル、エプロン、滑走路の延長ということを、行っているところであります。

さて、続きまして、「本物の価値を伝える情報発信」ということで、アジアの映画のロケの誘致が佐賀で行われていることが多く、特にタイの映画は、このところ7本連続で佐賀に来てもらっています。とても佐賀県の人気が付かないような素朴な所がいいということで、こういう河原だとか、さまざまな所がロケの舞台になっています。それから、ミシュラン・グリーン・ジャポニに取り上げられた吉野ヶ里歴史公園もいいのですけれども、この横に大きな自然公園がありまして、インバウンドの皆さま方もそうですが、福岡県のお客さまで、大いににぎわっているところでもあります。そして、大川内山という、もともと、先ほどの焼き物、昔の佐賀藩の御用釜ということで、外に技術が漏れないように、関所まで作られた場所がありまして、こちらのほうも非常にフォトジェニックな観光地として、評判がいい所でもあります。

続きまして、「佐賀県民が佐賀に愛着と誇りを持つ」ことが大事だということでありまして、やはり、地域を盛り上げていくためには、自分の地域のみなが、自分の地域をととても誇らしく思い、それを発信できることがとても大事なことでありと思っています。

そして、佐賀県は明治維新を成し遂げた4県の1つになるわけですが、来年は幕末維新150年ということで、山口県とも連携し、来年3月17日～2019年1月14日に博覧会を開催します。佐賀がどうして輝いていたのかということ、非常に素晴らしいものづくりができていたことと、人づくりが特筆すべきものだったということがあります。そういったことに光を当てることにより、第1次産業革命は佐賀の地から起きたわけですから、今、行われているIoT、AI、第4次産業革命も佐賀の地からそろそろ起こそうではないかという未来志向の博覧会にしたいと考えております。

続きまして、「多文化共生社会」ということでありまして、友好地域であります中国、韓国、そして、2020年オリンピック・パラリンピックホストタウンの相手国でありますフィジー、ニュージーランド、オランダとの青少年交流、スポーツ交流を盛んに行っているところでもあります。さらに、アーティストレジデンス、オランダハウス開設といったものに伴うクリエイター交流を行っています。佐賀県は、さまざまな施策にデザイナー、クリエイターの視点を入れるという特徴のある施策をやっております。それにより、さまざまな施策の磨き上げということがなされるということになります。さらに、外国人住民に日本語、生活習慣等を教える地域の日本語教室も行っているところでもあります。こうしたことで、県民総参加で世界に誇れる佐賀をつくっていきたいと考えております。

最後になりますが、佐賀は温泉がたくさんあるわけですが、これまで、あまり、この会議でも宣伝をしてこなかった、とっておきの温泉を今日は紹介したいと思います。佐賀市の古湯温泉という所でありまして、ここは日本一お湯がぬるいということです。女性が長湯で、男性はすぐに上がってしまうとよく言いますが、男の人でも、1時間、2時間、平気が入っている温泉ということで、今、大変人気があります。小川知事もよく使っている温泉ですね。

(福岡県・小川知事)

そうです。

(佐賀県・山口知事)

ということでありまして、ぜひ、おすすめです。

それから、佐賀県は、現在、コスメの日本の拠点というものを頑張っておりまして、パリやフランス、タイ等、海外の化粧品産業団体と連携しながら、自然から生まれた農産物でつくる化粧品などについて、集積が図られているところでもあります。そういったコスメなども、これからは、こういったホテル、そして、インバンドに対しても使っていけるのではないのかということでもあります。

以上が、我々がインバウンドに向けて、今、考えているところでもあります。皆様のお越しをお待ちしております。ありがとうございました。

(山口県・村岡知事)

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、全羅南道のイ・ジェヨン知事権限代行、お願いいたします。

(全羅南道・イ知事権限代行)

全羅南道知事権限代行のイ・ジェヨンでございます。浦項地震をご心配していただきました皆様、ありがとうございます。

まず尊敬する県市道の皆様、市長に全羅南道、外国人観光客、インバウンドの取組について、お話いたします。まず、申し上げる順序は全羅南道の観光条件及び推進政策、優秀事例、拡大法案、共同事業の提言についてです。

それでは、全羅南道は韓国のどの地域よりも豊富な海洋資源、自然環境を保有しています。韓国の海の面積の中で全国 37%、島は 65%、干潟は 42%を占めております。また、農水産物をもとに大変発達し、文化芸術も発達してまいりました。今も美しく、安全な食べ物、豊富な韓国の代表的な食の本場で知られています。

海上交通の要衝地であります。日本、中国、台湾、東南アジアをつなぐ務安国際空港。15万トンクラスのクルーズ船を受け入れることができる麗水港があります。高速道路が開通し、ソウルと全羅は2時間あれば行き来することができます。

韓国の文化観光によりますと、2016年全羅南道を訪れた観光客数は韓国国内において3位、満足度においては第2位を占めるなど、日ごとに全羅南道に対する認識が高まっています。

そして、世界の優秀観光地域として発達するために、さまざまな施策を進めています。観光妙所になる島を開発しています。こういうのを、エコツーリズム、文化、食堂等々、観光に対して利便性を提供するプロジェクトを推進しています。それにより、観光客が3倍に増えています。

また、何と言っても文化と芸術が観光においては必須であると考えます。素晴らしい文化芸術を持っている全羅南道を活かすために、南道文化産業を推進しています。特に、東洋芸術を伝授する施設でありますとか、2018年水墨画ビエンナーレを行っています。全体的に、生態観光、いわゆるエコツーリズムも発達しています。2007年に初めて「スローシティ」として指定されました、莞島であったり新安を訪れる観光客の足が耐えることはありません。

35万人であった観光客が、2016年には4倍以上増えております。134万人です。全羅南道が持つ光州、そして全羅北道、全羅南道合わせて、実は全羅道が定道として制定された1000年の歴史を刻んでおります。2018年には全羅道の訪問の年として、さまざまな行事を行う予定です。外国人観光客が楽に訪ねることができるように、さまざまな利便性を提供しています。東南アジアに行く最短距離にある全羅南道であります。東南アジアであったり、さまざまな地域に観光誘致を拡大しております。

クルーズ港においては、日本、韓国、中国をつなぐ中間中継地として脚光を浴びております。日本、ロシアに向かうクルーズ文化も始まっております。

国際観光博覧会に参加するなどのマーケットにおいても、プロモーションを行っております。旅行会社を招請、15回にわたるファムツアーを行いました。観光、そしてショッピングをつなぎ合わせたさまざまなTAXフリーの3店舗を開設いたしました。中国、日本、東南アジアなど、観光客の多様化を推進しています。

観光客の誘致事例を1つ、申し上げたいと思います。南側の海岸ですが、30万人ほどの人口を持つ2つの都市がありますが、2つの麗水と順天という都市が博覧会を元にして発展をいたしました。2012年には麗水世界博覧会、毎年1,000万人を超える観光客が訪れる観光地となりました。また、順天市は2013年に順天湾国際庭園博覧会を開催いたしました。順天湾が国家庭園第1号として指定をされました。今年10月を基準として、麗水博覧会場には300万人以上、そして国家庭園においては400万人を超える観光客が訪れています。また、この2カ所以外にもたくさんの観光客が訪れています。

差別化されたプログラムを運営しています。また、効率的な連携によるものと考えられます。順天湾国家庭園は、四季を通じたテーマのフェスティバルを運営しております。またThe Big-0ショーや、あとBusking、大道芸の講演など、麗水世界博覧会場ではこういったイベントを行っております。外国人から、こういったプログラムは好評を得ております。

次は、海外観光客の誘致方法です。「珍島物語」という歌がありますけれども、海割れですね。その神秘の海の道を歩きたいという日本の方々が大変多いわけです。それを中心として、また韓国孤児の母といわれる3000人の孤児を育てた方もいらっしゃいます。そういった方々の場所が有名だといえます。そして、韓流ドラマの撮影地などを観光商品としてつくっております。務安国際空港は直行路線を開設するなど、また企業の褒賞観光においても開発する予定です。

海、島などのさまざまな魅力を元にしたプログラムを開発しております。また、陸地をつなぐ橋であったり、島をつなぐ橋などを構築し、インフラ構築を行っております。また、黒山島を海洋観光の拠点と育成するための空港を建設いたします。この黒山島には、2020年から空港を開設し、小型飛行機が離着陸する空港でございます。韓国の観光地図を新しく書き換えることになるのではないかと、期待しております。

ここで私は、長期的な観点として、このような考えをしてみました。ここにいらっしゃる8つの県市道の皆さん、クルーズ観光商品も開発してはいかがかという内容です。韓国、日本の県市道は、海という共通の自然環境を持っています。この特徴があるわけです。全羅道においては、千字文を伝えた王仁博士がおります。また、有田焼の陶祖である、李参平がおります。このクルーズ寄港地とつなぎ合わせて、さまざまな伝統文化を訪ねるという観光コースの開発もよいのではないかと。観光客の拡大にも寄与するものと考えております。

それでは、2018年10月1日～11月30日まで2カ月間、木浦市と珍島郡で開催される、全南国際水墨画ビエンナーレを紹介いたします。来年、ビエンナーレに先立ち、プレビエンナーレを行います。さまざまな水墨画を勉強する学生も参加するようになっております。どうか、8県市道の皆様、知事、そして県民の皆様にもたくさんの関心、そして興味を持っていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

(山口県・村岡知事)

ありがとうございました。

それでは次に、福岡県の小川洋知事、よろしく申し上げます。

(福岡県・小川知事)

福岡県知事の小川洋でございます。この表紙の左の上を見ていただきたいと思いますけれども、先ほど訪れました元乃隅稲成、これと並びまして、CNNの日本の美しい景色31選の一つの福岡県の河内の藤棚でございます。ウイステリアです。

それでは、テーマに沿ってインバウンドの取組について、福岡県の資料に基づいて説明させていただきますと思います。資料にはございませんが、数字でまず押さえたいと思いますけれども、福岡県にはインバウンドの海外のお客様が年々増えております。去年は260万人の方が来られました。九州全体で370万人でございますので、その7割の方が福岡県に入ってきていただいていると。そして、この7割という数字はこの数年変わっておりません。年々数は増えてきております。絶対数は増えております。まさにゲートウェイとしての役割を果たしているというふうにいえると思いますけれども、そのための空と海の港についてご説明します。

まず、国内有数の利便性、非常に町と近い空港であります福岡空港、そして、24時間利用可能な北九州空港、2つの空港がございます。この空港から海外には21路線、韓国との間では5つの路線が今、運航されております。また、海の港のほうですけれども、韓国との間で釜山と福岡を高速船が2時間55分で結んでおりますし、カメララインが5時間半で釜山と福岡を結んでいるところであります。

また、福岡県に入ってきていただいたお客様は、日本各地に簡単に行くことができます。空路、新幹線、高速道路、そういった非常に便利のいい交通ネットワークで、日本各地と結ばれているからであります。福岡空港と北九州空港、2つの空港と、また海で博多港に入国をされました方は、この福岡県を拠点に九州各地、それから山口県をはじめとする本州に足を伸ばされているわけでありまして。

去年の12月ですけれども、韓国との間で新しく航空便、ジンエアーが北九州空港から2路線就航いたしました。この北九州空港を経由して、福岡県の各地、あるいは関門海峡を挟んでおります山口県、それから、九州の右の方の赤い線ですけれども、東九州道を使って、大分、宮崎、鹿児島というふうに訪問することができます。そういった訪問客をたくさん来ていただくために県のほうでは、ツアーバスの借り上げ費用の一部助成とか、個人のお客様ではレンタカーを借りるときに、その一部のお金を助成させていただいておるところでありま

す。

次に、福岡県の魅力について紹介させていただきます。東アジアとの距離が近くて、古くからアジアの玄関口として、私どもの地域は発展をしてきたわけですが、その交流の中で培われてきました歴史、文化、伝統工芸といったさまざまな魅力が福岡県にあります。また、豊かな自然と四季折々の美しい景色、風景にあふれておりまして、食べ物のおいしさでは、福岡県は食の宝庫といわれるほど、全国の中でも有名な地域の一つになってございます。

次に、これからの先のことでございますけれども、私どもはこういった豊かな観光資源をもっともっと磨いていきたいと思っております。インバウンドのお客様をもっと増やしていくために、これに加えて新しい観光資源を発掘して、磨いていこうと思っております。

それからもう一つ、これから先、観光を考えていく大事な要素は、今までのいわゆる「モノ消費」、「行った、見た、食べた」とかということだけではなくて、何か体験をした、経験をした、学んだ、そういった「コト消費」、モノからコトへと消費が移り変わっていると、ここにしっかり答えていく必要があるというふうに考えております。そのため福岡県では、トレイル観光やサイクリング観光、それから伝統工芸品を実際に自分で作ってみると、そういった体験プログラムなど、新しい体験型の観光資源の開発といったものを一生懸命やっているところであります。それを自然、それから今までの食、食べ物、そういった今までありました観光資源とうまく結びつける、そういうことでいろいろな地域に回っていただくと、それをやっていこうということでのいろいろな取組をしているところでございます。

その一つでございますけれども、九州各県一緒になりまして、済州島知事がお越しでございますけれども、チェジュが発祥の地であります「オルレ」を参考にいたしまして、「九州オルレ」というコースの設定を進めてきているところであります。「オルレ」が、逆に九州のオルレにいったことがある人が、本物のオルレをやってみたいということで、チェジュ島に行かれる方も増えているわけです。そういう意味では、双方向でお客様の増えていくのに、この「オルレ」というのは大事な要素になってございます。県内にはこの7月5日にユネスコの文化遺産に登録をされました、宗像大社の中津宮、沖津宮遙拝所と、そういった宗像・大島コースというのがオルレのコースの一つになってございます。その他、全部合わせて、九州では一番数が多い4つのコースの整備がなされている。今、5つ目ができようとしているところでございます。2015年には韓国から6万人の方が、この九州オルレに足を運んでいただきました。福岡、九州ならではの景色を楽しみながら、トレッキングを楽しんでいただいているわけでございます。

それから、先ほどもお話しが出ておりましたけれども、先月末に朝鮮通信使に関する記録文書など関連資料が、ユネスコの世界の記憶に登録をされました。その資料には、私どもの新宮町の相島におきます、当時の福岡藩によります朝鮮通信使の方々の接待の様子、これを記録したのも含まれているところでございます。この登録を機に、新たな相互交流、また友好親善、この輪が広がっていくことを大いに期待するものであります。

福岡県では、先ほど申し上げました、いろいろな地域の資源、魅力、観光資源、これについて海外のニーズに合わせて、的確に情報発信をしていきたい。そして、福岡、九州へのお客様を増やしていきたい、山口への増やしていきたいと思っております。具体的には、各

県と連携をしまして、海外で行われます旅行博、商談会に参加してPRをさせていただいております。また、海外の旅行社、メディアの招待をして、いろいろな記事を出して発信をさせていただいております。また、旅行商品を作ってもらっております。特に欧州、アメリカ、豪州、ニュージーランド、そういったところから来ていただくために、日本国内にあります彼らのランドオペレーターの方々の招聘を地域のほうに行っているところでもあります。

この他、この写真の一番右の上にありますけれども、福岡県が発祥といわれておりますとんこつラーメン、これが有名でございますが、このとんこつラーメンをアジアを中心に、福岡県ゆかりの店がたくさん店舗展開しております。その海外のお店で、福岡県の観光とか、食の魅力というものをポスター等で発信をさせていただいて、キャッチフレーズは、「とんこつラーメンおいしいでしょう。本場福岡でそのとんこつラーメンを食べてみませんか」と、そういうキャンペーンを今、貼っているところでもあります。

それからもう一つ、受入環境の整備ということで、外国人の来られる方が、安心、安全、そして快適に旅行を楽しんでいただけるような環境の整備に取り組んでおります。まずは、Wi-Fi 環境の整備というのをやっております。それと、左上にありますように、観光客をお迎えする観光施設、あるいは飲食、宿泊、そういった施設の関係の人達を集めて、どういうおもてなしをするのがいいかとかいうセミナーをやって、いろいろ勉強してもらって、それを実際のサービスに提供してもらっているということをやっています。それと併せて、そうした施設の方々が、外国語対応ができない場合に備えて、24時間365日、15カ国の外国語で対応できるオペレーターにつながるような、多言語コールセンターというのを今、運営しているところでもあります。

それから、先ほども申し上げました九州オルレのほか、九州は一緒になって海外からのインバウンドのお客さんを増やそうとしていまして、それぞれの県にあります観光地、いわばこれは点です。この点をしっかり磨いて、育てていくと。その点を次に隣の点とつなぐ、線をつなぐ。そして、面で周遊してもらおうという、そういった情報発信を一生懸命やっております。そのときに便利なようにということで、高速道路の割引周遊パスというのを、右の方に「Let's Drive Kyushu!」というのがありますけれども、それを今やっております。九州の高速道路が乗り降り自由で、一定期間乗り放題の割引パスであります。これを使っただけで、韓国をはじめ香港、台湾、シンガポール、タイの方々に今たくさん利用されているところがございます。こうしたいろいろな便利な商品も一生懸命出しているところでもあります。

最後でございますけれども、最近の数字を拾ってみますと、日韓双方のお互いに訪問する人々の数は、昨年過去最高の740万人になってございます。両方向とも伸びていますが、特に日本から韓国への観光客数については、まだまだ伸ばせる余地があると思っております。日本から韓国へのお客さんはもっともっと増やせたらいいと思っております。我々8県市道は、冒頭のビデオにもありましたように、これまでいろいろな分野で、共同の事業に取り組んで成果を挙げてきております。この会議を通じて、インバウンドのお客さんを互いに増やしていくために、それぞれの魅力を発信し合う、そして両方の地域からのお客さんの相互の行き来が、ますます盛んになるように、新しい共同事業というものにみんなで一緒にやってみたいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げます。

最後に、お手元の資料には間に合ってなくて入っておりませんが、スクリーンを見ていただくと分かりますけれども、私ども福岡県を中心に北部九州は、今、159万台の生産能力を

持つ自動車の生産拠点でございます。今年の12月15日～18日までの間、福岡市で福岡モーターショーというのを開催させていただきます。今年のテーマは「クルマと変えよう暮らしの未来」であります。自動運転など新しい技術を使った車の開発でありますとか、環境対応の進んだ車の普及について、関連の展示をいろいろさせております。いろいろな工夫をしておりますので、皆さん、近うございますから、ぜひ足を運んでいただければと思います。

ご清聴、ありがとうございました。

(山口県・村岡知事)

ありがとうございました。

それでは次に、慶尚南道 ハン・ギョンホ知事権限代行、よろしく願いいたします。

(慶尚南道・ハン知事権限代行)

慶尚南道の外国人観光客、インバウンドの誘致戦略についてお話しする機会を頂きましてうれしく存じます。順番ですけれども、「慶尚南道の概要」、「観光客誘致戦略」、「戦略別推進施策」、そして「主要国際行事」の順番にご説明させていただきます。

まず、慶尚南道ですけれども、山口県と姉妹都市を締結して、今年で30年目を迎える、非常に意義深い年となります。村岡知事と共に30周年の記念行事のお話をしていたのですけれども、こういった交流を通じて、友達として持続的な交流が拡大していくことを願っております。

我が慶尚南道ですけれども、人口345万人、そして18の市と郡があります。慶南は豊かな自然観光資源、文化資源を有している地域です。民族の心の山である智異山、そして天の恵みのような絶景を織りなしている南海岸というものがあります。また由緒正しい伝統文化がありますけれども、加耶の遺跡として八万大蔵経、そして韓国の三大名刹（めいさつ）である海印寺、通渡寺などの寺院があります。そして、韓国の儒教文化を代表する曹植先生の儒教文化など、由緒正しい伝統文化遺産を誇っている地域です。そして次に、鎮海の軍港祭り、そして統営の国際ヨット大会のように、非常に代表的なイベントがたくさんありまして、人気を呼んでおります。そして観光客に多様な見どころを提供することができるのです。また、ナノピア国際コンファレンスをはじめとして、経済産業の分野においてもさまざまな博覧会を誘致し、MICE観光の育成にも力を注いでおります。

次は、慶南の観光客誘致戦略についてです。慶南にある自然と文化遺産を元に、特色のある観光資源を育ててマーケティングを多角化しながら、民間団体や近隣の自治体と協業システムを構築する戦略を通じて、外国人50万人をはじめ、全部で800万人の観光客誘致を目指しております。2020年には、1,000万人を目標としています。全南の場合は、4,000万人を超えたということですが、我々慶南としても観光客の誘致のために、もっと頑張らなければいけないと考えているところです。

次に、戦略別の詳細な施策についてご説明します。まず、地域の特性を生かした観光施策ですけれども、自然との調和を楽しむ観光コンテンツの開発です。見るだけでなく、自ら体験できるように、リ्यूージュ、ケーブルカー、ヨットなど体験型のプログラムを運営してお

ります。慶南統営ケーブルカーといった場合は、年間 130 万人が利用している、非常に名勝となっていて、こういったことを通じて、さまざまな多様なコンテンツの開発にも取り組んでいるところです。

次に、人文環境を活用した抗老化ウエルネス観光コンテンツの育成です。慶南は、韓国を代表する朝鮮の名医、ホジュン先生が活動した地域です。なので、この地域に東医宝鑑の村、そして漢方医学の博物館や、薬草栽培地などをつくりあげました。これによって、気体操、そしてアンチエイジングの森のウォーキング、そして気の岩、気岩の物語など、さまざまなコンテンツを開発して、年間 67 万人の観光客が訪れる名所として生まれ変わっております。

次ですけれども、産業施設である廃造船所を活用した環境団地を建設する取組です。造船産業が危機により使い道のなくなった統営の造船所に、ランドマークの建物を建て、海洋公園やショッピングモールなどを建設し、観光団地としてつくりあげようとしています。国家事業である都市再生事業によって推進しております、これは地域内で 6,000 人の雇用創出が同時に期待されている事業でもあります。

次に、マーケティングの多角化のために、まずムスリム観光客の誘致を通じた、新しい市場の開拓です。ポスト誘客、つまり中国人観光客の次のターゲットとして、ムスリムの観光市場が注目されていますけれども、そちらを攻略して外国人観光客の拡大に取り組んでいます。ムスリムが好むレストラン、祈祷室などを設置して、訪問しやすい環境づくりに取り組んでいます。ハラール対応のレストラン、そういったものを設置して取り組んでいます。

次に新しい市場開拓のためのマーケティングです。在韓米軍が現在 10 万人ほどいらっしゃいますけれども、さまざまな慶南の観光資源を利用してもらうために、季節別、時期別のカスタマイズ型観光商品を開発して、観光ツアーを実施しています。在韓米軍の 1 万人、つまり 10 万人の 10% の 1 万人誘致を目標として、持続的なコンテンツ開発、そして P R 活動に取り組んでいるところです。

次に、観光客の誘致のためのさまざまな広報活動を強化している点です。国際博覧会などの参加を通じて、多様な慶南の商品をご紹介する、そういったことを通じて、また Instagram や Facebook などを通じてオンライン広報をして、またインフルエンサーを招待するマーケティングなど、さまざまな方法で活動を行っています。平昌冬季オリンピックにたくさんの観光客がいらっしゃると思いますので、この方たちがオリンピック前後に慶南まで観光することができるように、そういった P R 活動を行っているわけですが、これは慶南だけでなく、今日いらっしゃる 8 つの県市道に共通して、全部合わせてこういった観光客誘致というものを一緒にすればどうかと思います。なので、広報活動、P R 活動を共同ですればどうかということを提案したいと思います。

次ですけれども、協業体制の構築戦略です。民間との協業によって誘致活動を推進していきますけれども、地域別、民間人が 20 人で構成した SNS 広報団。そして、外国人の結婚移民者で構成された名誉外交官、そして大学生による記者団など、さまざまなことで信頼されるマーケティングを行っています。これは非常に有効な手段となっております。

次は、近隣の自治体との連携強化についてです。全羅南道と釜山とともに、国家公募事業で連携型の観光商品を開発し、1 つの地域だけでなく、南海岸全体を滞在しながら観光することができるように、シナジー効果を出せるように環境づくりに取り組んでいます。

次に、慶南で開催される国際イベントについてご案内します。慶南では、来年、世界射撃

選手権大会が8月31日～9月14日まで開催されます。そして同じ時期ですけれども、東医宝鑑村で漢方薬草フェスティバルも開催されますので、この機会に慶南を楽しんでいただければと思います。また、来年10月ですけれども、第23回世界韓人経済人大会が開催される予定ですので、どうぞたくさんのご参加をお願いいたします。

一つ、協力方策について提案をしたいと思います。現在、この日韓海峡沿岸県市道の会議を通じて、観光協議体をつくって運営しているということですが、今のところ自治体の公務員だけで構成されているので、活性化するのに限界があるのではないかと考えています。なので、我々公務員だけではなくて、8つの県市道の観光客や民間の専門家が参加する、官民の協議体を構成するのはいかがでしょうか。民間のアイデアを導入した商品の開発、そしてそういった民間の意見を導入することで成功事例をつくっていただけるのではないかと、共通のアイデアをつくっていただけるのではないかと考えております。どうぞよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

(山口県・村岡知事)

ありがとうございました。

それでは次に、長崎県の中村法道知事、お願いします。

(長崎県・中村知事)

ありがとうございます。長崎県知事の中村法道でございます。今日はまた、こうして皆様方とお会いする機会ができましたこと、大変うれしく思っております。また、村岡知事さんにはお心のこもったお出迎えをいただき、本当にありがとうございました。

長崎県のインバウンドの状況、具体的な取組等についてご紹介をさせていただきます。

まず、本県の観光客の推移でございますけれども、2012年から4年連続で増加傾向で推移しておりましたけれども、2016年は熊本地震などの影響により落ち込んでしまいました。こうした観光客のうちインバウンドの割合がどのくらいになるかといいますと、宿泊者数ベースで約11%のシェアを占めております。そのインバウンドの推移でございますけれども、こちら2012年から4年連続で増加しております、昨年の実績で71万2,000人ということになっております。その内訳としては、韓国からのお客様が最も多く、次いで台湾、中国、香港という順になっております。

次に、韓国からのインバウンドの状況でございますけれども、先ほどご覧いただきましたように、2016年には若干落ち込んだところではありますが、最もシェアの大きい韓国人観光客の皆様方は年々増加傾向にありまして、地震の影響もなく、過去最高の28万6,000人となったところがあります。右のほうに円グラフを紹介しておりますけれども、ただ宿泊地別に見てみますと、本県の場合、韓国から最も近い国境の島であります対馬に数多くの皆様方がおいでいただいているということで、15万2,000人は対馬においでいただいているということで、約半数を占めている状況であります。

次に、対馬の状況について若干ご紹介いたします。現在、対馬は釜山港と比田勝港ならびに厳原港、それぞれ国際航路で結ばれておりまして、1日1便ないし2便が運航されてお

ます。釜山から対馬までの所要時間は比田勝港までが1時間10分、巖原港までが約2時間ということもありまして、韓国の皆様方には身近な観光地として来訪者が急激に伸びる傾向にございます。

一方、海外からのクルーズ船の受入状況でございます。こちらも近年、急激に増加傾向で推移しておりまして、2016年の寄港数は273回で過去最高となったところです。こうした急増の要因といたしましては、近年、中国からのカジュアルクルーズの増加が挙げられるものと考えております。

次に、空のほうでございますけれども、長崎と海外をつなぐ定期航空路線については、韓国路線がエアソウルによって、昨年10月から長崎—ソウル間が週3便で運航されております。また、中国路線は長崎—上海間を週2便で運航中でありまして、こうした路線の利用促進を図り、交流人口を拡大していくことが国際観光推進にとって大きな課題になっているところであります。

こうしたインバウンドの状況が、全国でどのくらいの位置にあるかということをご紹介しておりますけれども、まず延べ宿泊者数ベースで見ますと、2016年は全国17位、九州で3位という位置にあります。また、2016年のクルーズ客船の寄港ランキングは、右のほうに表をお示ししておりますけれども、長崎港が福岡博多港に次いで第2位という状況になっているところであります。

次に、長崎県が取り組んでおりますインバウンドの施策について、ご説明させていただきます。長崎県においては、2020年を達成期間といたします県の総合計画に「交流でにぎわう長崎県」を将来像の1つとして掲げているところでありまして、観光分野の個別計画であります「観光振興基本計画」、さらには政策横断プロジェクトとして「アジア国際戦略」に取り組んでいるところであり、こうした計画の中に位置付けた上で、具体的な数値目標を掲げながらインバウンド施策を進めているところであります。

例えば、外国人延べ宿泊者数を、目標年までに100万人に増やしていこうという目標を掲げているところであります。具体的には、世界が認める観光県長崎づくりを目指して、インバウンド市場ごとの誘客戦略を策定・推進するのが第1番目の戦略。第2番目の戦略は、クルーズ客船の誘致戦略。第3番目の戦略は、国際エアラインの利用促進と誘致戦略という、この3つの戦略を重点的に進めていくこととしています。

現在、日本では2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、インバウンド誘客や観光産業に力を入れていこうとしている動きがあり、こうした国の動きも追い風にしながら、積極的な施策を進めていかなければいけないと考えているところです。

なお、長崎県においてはこうした施策を本格的に推進するために、今年、組織を若干見直しまして、国際観光振興室を創設し、体制の強化を図ったところであります。

まず1つ目の戦略でありますインバウンド市場ごとの誘客戦略としては、それぞれの市場に訴求するテーマやキラー・コンテンツの下、本県の自然、温泉、食といった多彩な素材を生かした旅の提案をすることで誘客に結び付けていこうと考えております。例えば、韓国からの観光客の皆様方には、巡礼、オルレ、温泉等のリラクゼーションといったテーマで長崎空港へのエアソウル便を活用した2泊ないし3泊のツアー商品の売り込みを図っているところであります。

一方、また来年夏には、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録が見込

まれておりますことから、これを契機としてヨーロッパあるいはフィリピンなどのキリスト教国からの誘客をさらに促進してまいりたいと考えております。

こうしたインバウンド市場からの誘客を図る上では、1つの県だけでの取組ではなかなか難しい課題もございます。広域連携を促進することは、誘客の相乗効果を高める上でも極めて重要であると考えているところであり、これからも近隣県、九州が一体となった海外誘客プロモーションを実施していかなければならないと考えております。今年度から東京オリンピック・パラリンピック大会を見据えた東京都との連携事業にも取り組んでいるところであります。

そうした中、先ほど来ご紹介いただいておりますけれども、日韓友好交流の象徴とも言うべき朝鮮通信使に関する記録が、ユネスコの「世界の記憶」に登録されたところでもあります。この朝鮮通信使を支えた誠心交隣の精神は、世界に広く発信すべき国際平和友好の象徴でもあります。今後、これを両国の共通のツールとして幅広く情報発信することで、日韓両国ならびに我々の地域の認知度向上にもつながっていくのではなかろうかと期待をいたしているところであります。

2つ目の戦略でありますクルーズ客船の誘致戦略であります。本県の主要な港であります長崎港や佐世保港。そして、本県には数多くの離島がありまして、離島港湾がございます。そうした港への誘致を積極的に進め、さらなるクルーズ客を本県へ呼び込むことで観光消費額の拡大に結び付けていこうと考えております。

最後に、国際エアラインの誘致戦略です。長崎空港は、今年7月にインバウンド誘客を促進する日本の地方空港として認定されたところですが、本県としても既にソウルや上海航路も就航しています。引き続き増便を働きかけるとともに、香港、台湾、ベトナムなどの東南アジア等に目を向けて新規路線の誘致・開拓を進めていきたいと考えています。また併せて、長崎空港は海上空港でありまして、運用時間の延長にも堪え得る空港でありますので、運用時間の延長に向けて、受け入れ拡大に結び付くよう力を注いでいきたいと考えております。

以上、駆け足でご説明させていただきましたけれども、長崎県といたしましては、来年の長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産の登録、あるいは2019年の日本におけるラグビー・ワールドカップの開催、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会に向けてインバウンドの一層の誘客に力を注いでまいりたいと考えておりますので、ぜひ皆様方にもご来県いただければ、大変ありがたいと考えているところであります。

最後に、国際的なイベントについて1つご紹介をさせていただきます。

先ほど、触れさせていただきました対馬では、1997年から毎年国境マラソンを開催しております。韓国からも数多くの皆様方にご参加いただいております。また近年では、サイクリングで島内観光を楽しまれる韓国の方々非常に数多くいらっしゃるということもございまして、今年は初めて島内を縦断するサイクリング大会を開催したところです。今年のこのサイクリング大会は、実証的なイベントとして開催いたしましたけれども、来年は規模を拡大して本格実施することとしておりますので、ぜひ韓国の皆様方にもご参加いただきますよう、お願いを申し上げます。

ご清聴、ありがとうございました。

(山口県・村岡知事)

ありがとうございました。

続きまして、釜山広域市 ソ・ビョンス市長、お願いいたします。

(釜山広域市・ソ市長)

尊敬する日韓海峡沿岸県市道知事の皆様、皆様と再会することができて、大変うれしく思います。今日の開催のためにご尽力くださいました村岡知事、感謝申し上げます。今回の会議に当たり、まず浦項の地震についてお見舞いしてくださいました皆様に、感謝を申し上げたいと思います。日本でも非常に大きな地震の被害があつて、復興したと伺っておりますけれども、一日も早く皆様の生活が元に戻られますことを願っております。

今日、このようにさまざまな県市道と我が釜山市が、ともに頑張ってきた朝鮮通信使がユネスコに搭載されたという、非常にうれしいニュースがありました。ユネスコに登録された、こういった登録とともに、朝鮮通信使の業績をもう一度再確認し、業歴をもう一度確認する、毎年開催されているイベントがあります。もう少しこういったイベント固定化し、再構築して再現して、韓国の都市と日本の都市がお互いにこういった文化をともに交流する、そして、そういったことを通じて観光商品へと発展させ、コンテンツを作っていけるような方法ができればいいと考えている次第です。

それでは、今回のテーマである外国人観光客の誘致のための施策についてお話ししたいと思えます。ご説明する順番ですけれども、釜山観光の対外的な位置付け、釜山観光の魅力、観光市場の動向、ビジョンと外国人観光客誘致に向けた戦略の順番でお話ししたいと思えます。

釜山広域市は、アメリカのニューヨークタイムズによる「2017年 行くべき世界の場所」で48位に選ばれました。そして、Airbnb(エアビーアンドビー)で「一人旅に人気の世界都市10」の10位。中国最大のオンライン旅行会社において、「2016世界10大自由旅行地」に選定されるなど、国際観光都市として、MICE都市として非常に注目を浴びております。そのように、釜山は国際都市として非常に人気があるのですけれども、そういった国際会議を通じて一度来られた方がまた訪れたいくなるような、そういった方たちを活用できるように、我々は努力をしているところです。

続きまして、釜山の観光の魅力について申し上げたいと思えます。便利な交通インフラ、そして多様な観光テーマ、四季折々の趣を楽しめるコンテンツ。もちろん、この瞬間も釜山観光のために知恵を絞り、研究をしている釜山市と地域の観光業界の努力、こうした人々の努力も観光客を引きつけている理由だと思えます。また、金海空港を通じて、ソウルとも近くつながっていますし、釜山は12カ国40と非常にたくさんの航路路線が運航しています。このように観光地を移動するとき、また都市鉄道、バスなど公共交通機関が非常に発達しておりますので、ツアーができるくらいアクセスが抜群に良いところです。

次に、都心ですけれども、海をまたぐ美しい橋があります。海も魅力ですし、ゴルフ、トレッキング、マリンレジャー、サイクリングといった多様なレジャーとスポーツが楽しめる場所となっています。こういった天然の資源もありますし、長い歴史を誇る梵魚寺とか龍宮寺など、仏教寺院もたくさんあります。そして、座禅や精進料理を体験できるテンプルステ

イなども楽しめる、そういった機会もご提供できる地域となっております。

韓国で非常に有名な釜山国際映画祭、そして、ワンアジアフェスティバルがありますけれども、東南アジアで非常に人気がある韓流のスターを活用した「Kポップ」、「Kフード」「Kビューティー」などをコンテンツとして、釜山の良さを世界に広げるためにPR活動を行っています。また、海祭りや花火大会、菜の花祭り、そしてクリスマスツリーの文化フェスティバルやホッキョクグマ水泳祭り。これは、冬の寒い時に海で水泳をするフェスティバルですけれども、こういった季節ごとにイベントをして、いろいろな方がいろいろな季節に楽しめるようなイベントを持続的にを行い、一年中楽しめるようになっていきます。

夏から秋ですけれども、ほとんどお祭りの釜山と言うことができるくらい、こういったスケジュールがぎっしりです。現在、冬にこういったフェスティバルをつくり出して、365日楽しめるようなフェスティバルが何かできないかと研究しているわけです。これで一年を通じて、何かフェスティバルを開催できればと思っているところです。

次に、松島ケーブルカー、スカイウォーク、青沙浦展望台やアナンティコーヴ、こういったものがありますけれども、非常にいいホテル、コンドミニアムが観光商品にもなるということがアナンティコーヴ。これはヒルトンホテルがつくっているものですがけれども、最近オープンしたアナンティコーヴも非常に人気を博しております。昨年10月には、アジア初のマーベル体験館が釜山港にオープンしましたがけれども、仮想現実（VR）、そして拡張現実（AR）を3D、4Dで体験できるようになっています。

次に、釜山の観光市場の動向ですけれども、訪問客数を申し上げますと、外国人観光客は180万人、前年同期比で17.8%の減少となっています。済州特別自治道の知事が先ほどおっしゃいましたけれども、中国との関係によって中国の団体観光客がほとんど姿を消してしまった影響が直接このように表れているわけです。しかし、幸いにも最近、この両国の問題が解決しつつありますので、今後はそういった観光客も原状復帰できるのではないかと期待しているところです。

釜山市のビジョンと外国人観光客誘致のための戦略についてお話ししたいと思います。釜山市のビジョンですけれども、釜山経済をけん引するグローバル観光都市の実現というものです。釜山はこれまで製造業で活気を呈していた地域で、観光はあまり大きくはありませんでした。しかし、産業構造の変化に伴って必要性も感じています。特に、観光に非常に長所、メリットがあるということで、知識サービスというものが非常に必要であるということで、我々はこの数年間でたくさんの力を注いでいます。また1,000万人くらいの国内観光客があり、たくさんの人たちが釜山を行き来していますけれども、サードの問題のために、これまで50万人くらいいた中国人の観光客が姿を消してしまいました。しかし今後は、300万人の外国人観光客誘致を目標に頑張っていきたいと思っています。

こうした目標達成のための主な推進戦略ですけれども、マーケティング地域を多様化しています。今、中国と多少雰囲気は変わっています。これまではグループ観光客、団体客がほとんどでしたけれども、最近は個人旅行者や特別な目的を持った旅行者がターゲットとなっています。そして、台湾や香港などの中国系、タイやベトナムなどの東南アジア圏へと観光マーケットを拡大しています。インドネシア、マレーシアなどのムスリム市場、インドなどの新しいマーケットにも集中的に掘り起こすように取り組んでいるところです。

2つ目ですけれども、クルーズ観光のため、出入国の時間を最小化し埠頭を拡張するなど、

インフラの拡張をしています。西面という所のメディカルストリートを中心とした、医療と観光を融合したサービス産業の育成。そして、釜山だけの特徴的なコンテンツを組み合わせたキラ・コンテンツの育成などの商品を進めています。

3つ目ですけれども、新規路線を開設する航空社への財政支援、また外国人客誘致のためのインセンティブ提供など、直接的な経費支援によって、地元産業と釜山市の共生を図ろうという努力をしています。こういった直接的な努力によって地域の活性化を図ろうとしています。

次に、4つ目は観光と技術を融合した未来型観光サービスの提供によって、観光客の便宜を取り計らおうとしています。具体的には、近距離の無線通信 ビーコンを活用した観光情報の提供、体験型の技術コンテンツを開発、VR体験館を拡大、Wi-Fi 拡大など、こういったスマート観光を戦略として推進しています。

最後に、広報の効果を最大化するため、韓国観光公社や他の自治体などとの連携強化も取り組んでいます。今年は、韓国観光公社の協力で台北、大阪など4つの地域に釜山の観光広報事務所をオープンしました。蔚山、慶南、福岡市など、国内外の自治体とともに観光商品の開発と広報など共同プロモーションを進めています。

来年度、釜山で開催される国際イベントについてですけれども、G-STAR 国際ゲーム展示会があります。この G-STAR 国際ゲーム展示会は、現在非常に成長し、世界では釜山ともう1カ所、別の所の2カ所だけで開催しています。今月1日に終わったのですけれども、土曜日に1日だけ G-STAR ゲーム展示会を訪ねた有料の訪問客は、8万3,000人と非常に大盛況だったわけです。土曜日の1日だけで8万人という、素晴らしい成果を上げました。G-STAR は、今、釜山の観光の目玉商品として位置付けられてきています。来年は、知事の皆様も、この G-STAR 国際ゲーム展示会に、ぜひ一度見学にいらしてください。

以上で、私の発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。

(山口県・村岡知事)

ありがとうございました。

それでは最後に、私も山口県から発表させていただきます。初めに、山口県の最近のインバウンド関係のトピックスをいくつかご紹介させていただきたいと思います。

まず午前中、皆様にご覧いただきました長門市の元乃隅稲成神社でございます。ご説明させていただきましたように、アメリカのCNN 「日本で最も美しい場所31選」に選ばれたことから、実は山口県の人もほとんどの場所を知らなかったわけですけれども、そういったアメリカの大きなメディアに取り上げられたことで、急に外国の方も来られ始めました。昔は、年間3万人くらい来ていたところが、去年は53万人、今年は既に80万人を超えたということで、既に大変な数に増えているわけです。一気に本県を代表する観光スポットになったということでありまして、情報の発信、またSNSの威力を我々も改めて強く感じているところでございます。

また、長門市の隣の下関市であります、角島大橋という橋がございます。橋自体は以前からあったわけですが、旅行者向けの口コミサイトで、皆さんたち、世界で最も見られている「トリップアドバイザー」の日本の橋ランキングで第1位となりました。近くにある「道の

駅北浦街道ほうほく」も道の駅ランキングで1位ということでありまして、こちらも今、全国から多くの方が来られる、そうした観光地となっております。

昨年12月、ここ大谷山荘おきまして、ロシアのプーチン大統領と安倍首相によります「日ロ首脳会談」が開催されました。この映像は、国内外に多く発信されまして、またこの会場で行われましたワーキングディナーにおきまして、下のここに出ています「東洋美人」という山口県のお酒が、プーチン大統領が飲んで「大変おしかった」と言っていただきまして、そのおかげで、この「東洋美人」をはじめ、日本酒の売れ行きも大変伸びているところでございます。また、この首脳会談を契機に、南西部のクラスノダール地方というロシアの広域自治体と新たな交流もスタートしています。

山口県のインバウンドの状況でございますけれども、2015年の外国人宿泊者数は前年の約2倍の10万9,000人ということで、過去最高を達成しているところでございます。2016年は若干減りましたが、傾向としては着実に伸びてきているということです。内訳といたしましては、韓国の皆様が圧倒的に多くて約半数を占めているという状況でございます。

インバウンドの拡大に向けました具体的な取組でありますけれども、まず海外プロモーションの強化についてです。山口県は、海外に事務所は持っていませんけれども、重点地域として捉えております韓国と台湾、上海、香港、タイに、旅行会社等への継続的なセールスですとか、ネットワークづくりを行うための観光プロモーターを配置しておりまして、現地目線でのプロモーション活動を展開しております。私自身もいろいろと海外に出向いて、自ら旅行会社、航空会社等にも働きかけもしております。

次に、外国人旅行者のための受入環境整備の関係でございます。実際に、外国人観光客の皆さんに、旅行中に何が困ったかと聞きますと、第1位は言葉が通じないということ、第2位が無料公衆無線LAN、いわゆるWi-Fiの環境、そして第3位が、多言語表示が少ないということであります。そうした方に対応するために、24時間365日、14言語によります多言語コールセンターを設置しました。また、民間企業と連携した「やまぐちFree Wi-Fi」の普及促進、特に、外国人観光客に観光や宿泊やグルメ等のさまざまな情報を提供します「やまぐちトラベルアプリ」の提供などを行っております。特に、本県は2次交通が課題でありまして、県内の路線バスが定額で乗り放題となりますバスパスですとか、レンタカーのカーナビの多言語化等にも取り組んでおります。

次に、海外から直接に観光客を呼び込む、また路線の開拓にも力を入れています。山口県には、1970年に国際定期フェリーとして就航しました、下関市と釜山を結ぶ関釜フェリーがございまして。実は、これは日本初の国際定期フェリーということで、大変歴史があるわけです。毎日1往復、年間約18万人が行き来をしております。そして昨年、韓国 仁川国際空港と山口・宇部空港との間で念願でありました定期便が実現いたしました。昨年度の利用実績が73.8%ということで、大変好調でございまして、今年も週3便で今、運航が開始されています。

次に、旅行者のさまざまなニーズに対応した魅力の発信ということで、韓国でも人気の高いサイクルスポーツを活用した取組をしております。山口県は、三方が海に開かれておりまして、サイクリングをするのに大変適した環境で、秋吉台等の優れた景観もございまして。そうした環境を生かして、サイクルスポーツの誘致等もしております。さまざまサイクル環境を整えるために、自転車のラックですとか修理工具等を備えたり、サイクリストの休憩場と

なりますサイクルエイドの設置、あるいはレンタルサイクルを常備しますサイクルステーションの整備等を行っております。また、さまざまなシンボルイベントの開催ですとか、ポータルサイトの展開もしております。

現在、全国のJRグループと連携いたしまして、「幕末維新デスティネーションキャンペーン」を展開しています。その中の1つで、インバウンドに向けた取組として、海外でも人気があります「名探偵コナン」とタイアップしたツアーを開催しています。萩ですとか、幕末維新ゆかりの史跡を、謎解きをしながら巡るということでありまして、国内だけではなくて、韓国、台湾の訪日の旅行者の皆さんを対象とした海外版ツアーも同時に開催しております。

韓国からの旅行者の皆さんが、行ってみたい日本の観光地のトップに挙げておられる温泉でございますが、本県はここ長門・湯本温泉、山口市の湯田温泉をはじめ50を超える温泉地がございます。実は、山口県の温泉はいわゆる「美人湯」と呼ばれるアルカリ性で軟水系の温泉が非常に多い。これは肌の余分な皮脂とか、角質を落とすということでもありますけれども、この美人湯に山口県は巡り合える確率が、実は日本一高いということが分かってまいりました。そこで、「美人湯遭遇率」日本一！？ということで、今、キャンペーンを展開しております。お肌も心も「オン」から「オフ」にする、心を休めるのと、体の汚れもオフにするということで、「オフ泉県山口」というPRを、今始めております。

最後に1つ、今後の取組をご紹介させていただきます。私は今、150年のバッチも付けていますけれども、来年が明治改元から150年という節目の年であります。山口県におきましては、明治150年プロジェクト「やまぐち未来維新」を展開しています。その中核イベントとして、来年の9月14日から11月4日までの52日間、「山口ゆめ花博」を開催いたします。この「山口ゆめ花博」は大変広い会場であるわけですが、地域の公園が地域の皆さんのリビングルームのように、人が出会って、また会話をし、遊んだり、子育てにも役立つ、新しい公園の利用方法、楽しみ方を体験・体感できる、新しい形のフェアを目指しております。このフェア初のイベントですとか、森や海が感じられるアクティビティーなどの多彩なプログラムを用意しています。今までにない体験・体感をここで味わっていただきたいと思っております。日本全国はもとより、韓国からも多くの皆様に、ぜひお越しを頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に自由テーマですけれども、山口県から新規事業を提案させていただきたいと思っております。2つほど事例を紹介しますが、昨年、県内の高校の男子生徒が「グローバル観光県・山口～外国人観光客誘致のススメ～」という研究テーマに取り組みまして、考案した観光ルートが日本航空のホームページで紹介されて注目を集めました。そういう若い高校生たちの目線を、大手の航空会社も紹介しているということです。

また、今年8月に韓国を旅行しました、山口県にあります山口大学と山口県立大学の女子学生がSNSで発信した韓国の魅力を、県内の旅行代理店がツアー商品に反映させて、若者の利用促進につなげようとしております。そうした動きを見まして、若者目線で魅力開拓ですとか、魅力の発信をしていくと、これはインバウンドを進めていく上で、大変重要で、また影響力も大きいと認識しております。

そこで、我々からの新規事業の提案ですけれども、この8つの県市道の大学生が連携して、各県の観光モデルルートを開発してはどうかというものです。

まず1年目は、日本側の4県でやってみると、それぞれ4つの各県の大学生と、韓国側の

4市道のそれぞれの各大学生がグループを組んで、フィールドワークをしながら、それぞれの県の観光地、魅力を見て探してルートを考えていくと、そういったものやっていくということでもあります。2年目は、同じように韓国側の4市道でやって、山口県から大学生が行ってと、そういった形の取組をしてはどうかということでございます。

ここで考えた観光プランは、旅行会社ですとかマスコミ関係者等、幅広いステークホルダーに向けまして公開のプレゼンテーションも行って、そのプロセスもしっかりと見てもらいながらやっていってはどうかということでもあります。

日韓の海峡沿岸地域の外国人観光客の誘致は、まだまだ拡大の余地があると思っております。ぜひ、この近い8縣市道がしっかりと連携して、さらに強い絆を持ってインバウンドに取り組んでいってはどうかと。そうした提案をさせていただきまして、山口県からの発表とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

(山口県・村岡知事)

それでは、ここで発表は一通り終わりましたので、このあと意見交換とさせていただきますけれども、それに向けまして、休憩を1回取らせていただきます。再開は16時10分、約15分ですけれども、16時10分再開ということでよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

(休 憩)

(山口県・村岡知事)

それでは、休憩を挟みまして、これから意見交換に移りたいと思います。

これまでに皆様方から、「インバウンドの取組について」を共通テーマに、各縣市道での施策や事例についてご紹介いただいたところでもあります。これからは、皆様方から発表がありました内容を中心に、自由に意見交換をしたいと思います。ご質問なり、ご意見、どうぞご自由に頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

どなたからでも結構ですけれども、ご質問、ご意見等、ございませんでしょうか。

(釜山広域市・ソ市長)

それでは、私のほうからご質問差し上げてよろしいでしょうか。

まず、佐賀県の知事から、戦略的な事業として指定して、それをインバウンドの誘致に連携させることができないか、そういうコスメのお話がありましたけれども、その部分について、もう少し具体的にお伺いできればと思います。

次に、2つ目のご質問です。先ほど、山口県知事が自由討論の議題としてご提示された問題点について、十分理解できていなかったのですけれども、まず山口県に行くことのできる、

そういった経路を韓国の学生たちが山口県を回るプログラムを作るということですか。そして、韓国を対象に山口県をツアーする、そういう学生を対象にツアーするところをつくるということですか。韓国、日本を分けて、第1回目から一緒に共同でツアーを回るような、そういう方向で考えるといかがでしょうか。

そして、慶尚南道のハン・ギョンホ副知事から、8県市道には、観光において協議体があって協議をしているところですが、今は公務員だけなので、旅行業界とか、そういったところの専門家が一緒に参加することによって、商品開発へとつなげていければどうかというご提案がありましたけれども、そこについて山口知事はどのように考えていらっしゃいますでしょうか。

(佐賀県・山口知事)

すみません。私、名前が山口なので、今日は混乱ををすると思うのですが、コスメティックバレーについてお答えしたいと思います。佐賀県の唐津という所は非常に化粧品の原料に恵まれています。オリーブ、椿など、さまざまな農産物があります。今、フランスのコスメティックバレーの圏域内にあるヴァル＝ドワーズ県と連携しており、コスメティックバレーの名誉会長に、唐津のジャパン・コスメティックセンターの会長をお願いしています。

ジャパン・コスメティックセンターの大きな仕事としては、1つは世界中の化粧品原料の供給地のような機能を果たすということ。もう1点は、さまざまなニーズに応じたOEMも含めた化粧品関連産業についての集積が図られています。そして、フランスはもとより、スペイン、タイ、イタリア等さまざまな化粧品産業団体と提携するようになってきています。例えば、化粧品もそうですし、それに合わせたハンドマッサージ等、周辺産業は非常に幅広いものなので、そういった物を佐賀に集めることにより、インバウンドで来ていただいた方が旅館に泊まっても非常に心地良い生活ができるというところまで広げていくと良いのではないかと思います。

韓国では、そういうものがありますよね。コスメはあまりないですか。

(釜山広域市・ソ市長)

ビューティー産業クラスターということですね。

(佐賀県・山口知事)

そうです。

(山口県・村岡知事)

では、私が先に答えます。すみません。

今、お話がありました我々の提案で、旅行商品を大学生が考えたかどうかという提案をさせていただきます。これは我々の資料にあるとおり、まず2年間やろうと、最初の1年間

は、こちら側の4県それぞれに、その県の人間4人と、あと4市道から、例えば福岡なら福岡、山口、長崎、佐賀と4県に来てもらって、8人のチームでその地域の大学生と、それから相手国の大学生に来てもらって回って、我々からすれば韓国の学生に訴求力があるといえますか、アピールできるような、「旅行はこんな形で回ったらいいんじゃないか」という提案をしてもらって、これを組み立てていくということです。今度、2年目は逆で、それぞれの市道に我々4県がそれぞれの所に行き、同じようにプランを考えていくということです。

この2カ年の提案ということでさせてもらってしまっていて、1つは予算的な制約もあるので、よく相談しながらやらなければいけないということもありますし、それぞれ観光に適している時期が重なったりということもあります。例えば秋とか、そういった時期にやるときに、同時にいろいろな所でやるのは調整がなかなか大変ではないかということもあって、2年間ということで提案させていただいています。また、これは具体的に幹事会等のレベルで話をさせていただきますので、「もっとこうやったほうが効果的ではないか」とか、「インパクトがあるのではないか」ということがあれば、その場でもどんだんご提案いただいて反映していきたいと思います。

また、慶尚南道の知事さんからお話があった、行政だけではなく、民間も入れてという話ですが、おっしゃるように民間の視点をしっかりと観光に入れていくというのは重要だと思っておりますので、こういった形でやるか、どういうふうになれば、各所から民間のほうも一緒になって会議体がつくれるかということは、それぞれ事情もあると思いますので、またこちらでも幹事会のほうで話をさせていただきたいと思います。

いずれにしても趣旨とすれば、やはり行政だけではなくて、民間の視点をしっかりと入れ込んでいいものを作っていくということはその通りだと思いますので、また議論をさせていただきたいと思います。

(慶尚南道・ハン知事権限代行)

では、それと関連しまして、コメントをさせていただきます。8つの県市道の我々が、共通してすることができる事業というのは、文化・観光のテーマをもってすることができると思うのです。実務的に企画する期間、そして先ほど申し上げた8県市道の公務員で構成された広域観光協議会で、今そういったことを企画などしているわけです。その機能を大幅に強化していかなくてはいけないと思います。

共同事業を開発することも重要ですが、先ほどおっしゃったように、来年の平昌オリンピックもありますし、2020年の東京オリンピックもあります。こういった国際行事が続きますので、そういった行事と連携した8つの県市道の観光インフラの拡充、観光客の誘致、そういったものを実務者が体系的に準備するためには、民官が共同で運営していく実務機関が必ず必要だという趣旨で申し上げたわけです。

(山口県・村岡知事)

分かりました。具体的な、どのような形が考えられるのかということをよく協議させていただきたいと思います。

(濟州特別自治道・ウォン知事)

別のテーマです。別のテーマなので、まずお話が終わったあとに申し上げたいと思います。

濟州の経験に関するものでもあります。参考までに、最近の朝鮮日報の記事です。中国観光客が再び団体客として訪れるであろうというニュースによって出た記事です。部分的なものを申し上げます。

中国の旅行会社が、中国を訪問した韓国の旅行者に1人当たりの手数料を300元から600元に上げてほしいと要求した。ですから、韓国側としては6万ウォンから10万ウォンになるわけです。1人当たり1万円程度の集客手数料を払ってほしいということです。

韓国に対する団体旅行商品を販売する場合に、25万ウォンのものとした場合、FTA協定上に、韓国の旅行会社が中国の旅行者を直接集客することはできないわけです。必ず中国の旅行会社が仲介に立ってしなければいけないわけです。ですから、1人当たりのマーヅンを要求しているということです。

これが今までのサード配置の問題によって、中国政府が観光を中止させていました。ですから、これが自由化になるわけですから、たくさんの旅行会社が競争になってくるわけです。韓国の小規模旅行社の場合、集客手数料を払うと全て赤字になり、マイナスツアーと言っています。このマイナスツアーをどこで補うのか。免税店、ショッピング、入場料を取る施設、ホテルであったり、レジャー施設であったり、ここからショッピングのマーヅンであったり、そういった手数料を賄おうとする。そうすると、免税店の場合には20%から30%程度の手数料が払われるわけです。1人当たり100万ウォンだった場合には、お客さんに対して20%の手数料を旅行会社に払うわけです。ですから、大型旅行社は直接免税店に二重で取る場合もあるわけです。

なぜこういうシステムになったのか。これは香港、台湾で行われた中国観光客に対する取引形態です。ですから、双方が誘致しようとして、きちんとした規制であったり、制度であったり、そういったものがない状態で、個別の誘致競争が高まった状態でこういったことが起きてしまった。ですから、大きな旅行社の場合は、濟州に対して1年に100万から150万人の人間を募集して送り込みます。ですから、到着する前に先払いで手数料を受け取って、それだけ確保して帰ってしまうのです。そういったことが濟州特別自治道だけではなく、韓国の場合は、他の地域でも観光客を誘致するために同じように旅行会社に対して、自治体は補助金まで払いながら誘致をしようとしている。

私が申したいのは、これを先々、どういうふうと考えていかなければいけないのか、対処しなければいけないのか。一緒にお話ししたいのは、まず日本の場合、少しでも似たような事例、実績、経験などがあればお話しいたきたいと思います。

また、観光客を誘致すると、補助金(インセンティブ)を払うことになります。濟州特別自治道の経験を申し上げますと、直行便がない、航空事業がまだない所に、例えばチャーター便を飛ばしたりする場合に赤字になるわけです。ですから、それに対して道からインセンティブなどの優遇措置をするわけです。ですから、旅行会社が何かのテーマ商品を開発したとなった場合に、初期の市場形成の、その費用、利潤、原価を賄うために自治体側から何らかの支援をする。先ほどのように、ショッピングであったり、業者は観光客が来ることによ

って直接的に売り上げが上がります。ですから、それに対する手数料を渡す。合法的なものもあれば、不法のものもあります。

韓国の場合は合法なのか、それとも違法なのかとても曖昧です。日本の場合は、安倍政権の政策において、オールジャパンにおいて、観光客誘致のインバウンドに対しては2020年のオリンピックを目指してさまざまな施策を行っています。ですから、自治体のインセンティブ、奨励金など、こういった面において、起きている観光客誘致、補助金であったり、インセンティブ、奨励政策がどのような制度になっているのか、どのような方向性で進んでいるのか。経験、実績、日本の制度、方法、この場で皆さんの意見を伺いたいと思います。

(山口県・村岡知事)

今のお話、いかがでしょうか。

(福岡県・小川知事)

では、私のほうから。ウォンさんの話について、お答えしたいと思います。

まず、企業が旅行会社に対して、お土産店に来てくれるからどういうことをキックバックしているとか、私は、その辺はよく知りません。私どもが今から答えようとしているのは、先ほどのご説明でも申し上げましたように、今、韓国と北九州空港との間で、定期便が釜山と仁川の2つの路線で飛んでいるわけです。私どもとしては、これをずっと定着させたい、お客様を広げたいという思いがあります。そこで、韓国から来られた方々が、我々福岡県、あるいは九州で周遊される際の、バスをチャーターされる分のチャーター代の一部を補助することを1つやっています。

団体客の場合はそうですが、個人で来られている韓国のお客様に対してレンタカーを決まった所で借りられる場合は、そのレンタカー代の一部を自治体が支援しているというケースがあります。これは、路線の誘致に成功した後、定着させたい、お客さんをもっと広げたいという思いで、我々はやっています。そういったことにかかると、日本政府のルールがあるというふうには承知しておりません。

(山口県・村岡知事)

他に、いかがでしょうか。

そうですね、山口県の場合でも、例えばフェリーを使った場合とか、チャーター便を使った場合に、山口県で1泊すれば1,000円とか、そういう一定のルールを決めて助成をしている場合はございますが、個々に交渉したりとか、こうしてやったら、これだけいっているとかそういった感じではなく、ある程度のルールを持って、それでインセンティブにしているということではあります。

多分、多くの自治体も似たようなものではないかと思っておりますけれども、今、それがどんどん上がって行って、競争になっているかどうかという、そこまではないかなという感じは受けております。

他にありませんでしょうか。

(長崎県・中村知事)

ほとんど日本の場合、似たり寄ったりということで、金額に多寡はあるのだらうと思います。例えば、インバウンド客を誘致するために、新たなチャーター便を運航する。そういった場合に、運航主体となるエアラインに、例えば空港着陸料相当分であるとか、空港のカウンター使用料相当額、一定割合を補助して赤字要素を解消していく。それに合わせて、送客をしてもらうために、例えば旅行用パンフレットを作製して、誘客に努めないといけない。そのパンフレットの製作代であるとか、明確な名目を設けて、こういった情報発信にこれを作る、それで幾らという感じで支援をすることはありますけれども、誘客実績に応じて手数料的な形で払うということは、民間の場合、あるいは免税店の運営者と旅行会社との間ではあり得る話かもしれませんが、行政の場合は、そういった例は恐らくないのではないかなと思います。

(佐賀県・山口知事)

5年前は、日本のインバウンドはまだ700万人くらいでした。今、それが5年間で約4倍近くに増えています。日本政府自体はインバウンド政策というのはほとんどなかったと思います。それがここに来て、ビザの解禁なり、いろいろな政策を複合的にやり、観光というものが、これからの経済成長に非常に利する大きなテーマとして挙げられました。そこに各都道府県の空港を絡めた、お互い連携はするけれどもライバルのような関係でもあります。

例えば、うちはソウルとの飛行機は、大分とうちに入っているんで、大分とある程度連携を取るところもあります。佐賀に入って、大分から出るというパターンが結構多かったりというところがあるので、恐らく具体的な各地域の助成は、それぞれいろいろなところがあり、それは議会や県民の皆さま方がそれをどうチェックするのかというところと相まって千差万別なのだらうと思います。

ただ、ほぼ全ての県がそういったことをやり、このインバウンドの波にしっかり乗っていくようにという方向でやっているところだと思います。

(山口県・村岡知事)

よろしいでしょうか。

(福岡県・小川知事)

話題を変えてもよろしいですか。ありがとうございます。

今の話に少し絡むのですけれども、参考までに申し上げますと、私は内閣官房で長く働いておまして、今から15年くらい前ですけれども、インバウンドの観光者を増やしていく政策はどうやってあるべきかということを内閣・総理官邸で議論していたときの担当だったの

です。

15年前の当時、日本には500万人くらいインバウンドのお客さんがいました。結局、2010年の目標を1,000万人と立てたわけですが、今、2017年で2,800万人くらいになっていまして、2020年には4,000万人まで増えるということになっているわけです。当時、担当していた立場から見ると、隔世の感があります。すごい成長をしています。

この理由は、我々のビザの緩和とか、そういったこともさることながら、一番大きいのは、周りの国がやはり経済発展をして豊かになったということだろうと思います。その経済の発展があるから、全体のパイが広がって大勢の人が海外に出られるようになった。それは、どの国もそうです。それがベースになっていると思います。

そういう意味で、これをずっと続けていくとどうなるのかということで、先ほど、済州道のウォン知事さんがおっしゃったのですが、私がそうだと思いますのは、要するに、その当時、日本の政策を議論しているときの委員会の座長（チェアマン）が東大の先生だったのですが、その方がいつもおっしゃっていたのは、「観光というものは住んでいい。住民の人にとって住んでいい場所だから、よその国、地域の人があそこに行ってもいいのだということから、『住んで良し』ということが第一だ」ということを言われてました。

そういう意味では、サステナブルな観光を追求するべきだというお考えに私は賛成です。つまり、自分の所の住民が満足できるような環境というのが盛り上がるようでないと、外から来た人にも満足してもらえないのではないかとという意味では、地域のサステナビリティを念頭に置いて、いろいろな政策を打って、観光を正しい形で増やしていくということは、私は賛成です。

（山口県・村岡知事）

その他に、いかがでしょうか。

（全羅南道・イ知事権限代行）

私は、佐賀県の知事にお伺いしたいと思います。私の発表の中で若干触れましたが、全羅生南道では務安国際空港があります。国が直接運営している空港ですが、なかなか活性化できていません。佐賀県で運営している国際空港がとおりになると聞いております。実際に運営しながら、県側の負担はないのでしょうか。そういった負担がない場合、活性化は実際どのように進んでいるのか、お伺いしたいと思います。

（佐賀県・山口知事）

佐賀の場合は、九州の中で空港の規模が小さいのですけれども、場所が良いということで、今、非常に活性化して伸びています。先ほどのコミッションではないけれども、いろいろな物も入れながら、もちろんレンタカーを安くしたり、さまざまな政策をしながら進行しているので、黒字か、赤字かということを考えれば、表面的には赤字だと思います。ただ、非常に多くの効果が出ているので、トータルからすれば、県民も非常に喜んでいるのだと思って

います。

あと、先ほどとの関係で言うと、私は2年前、ソウルで過疎対策の講演をしたことがありました。その時に、日本は今、東京一極集中ではなく、むしろ地域の素晴らしさに気づき始めていて、「田園回帰」といいますか、本当に実生活の素晴らしさ、実態の生活が魅力の一つになっています。そこが韓国は、まだまだやはりソウルへの憧れが強く、なかなか地域の魅力というところまでいっていないというような話を聞いたのです。恐らく、今の日本人からすれば、全羅南道のような豊かな所というのは、素晴らしいと思えると思うのですけれども、韓国の皆さま方は、みんなソウルに行くという意識というのはだいぶ変わってきましたか。それこそ、電力会社の皆さんも、やはりソウルが懐かしいという話もあったのです。

(全羅南道・イ知事権限代行)

今、現在はまだその状況にあります。随分、緩和されたと言えると思います。例えば、分権化されましたし地方自治化されましたので、むしろ首都圏よりも良い地方自治体が増えています。地方は地方なりに活性化し、長所を持って、また、その長所といったものが表面に出てきていると思います。

(山口県・村岡知事)

他にいかがでしょうか。これから先、帰らないといけない知事さんもいらっしゃるのですが、議論は尽きないところではありますけれども、自由討論は、ここまでとさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、本日の討論の内容に基づき、共同声明文案を作成しまして、後ほど、皆様にご覧いただき、ご了解いただいた上で、本日18時45分から予定しております共同記者会見で発表させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

これで、本日の知事会議で予定しておりましたプログラムは全て終了いたしました。円滑な会議の進行に、ご協力いただきました各県市道の知事、市長の皆様方、関係者の皆様方にあらためて感謝申し上げます。誠に、ありがとうございました。

以上をもちまして、第26回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議を終了いたします。ありがとうございました。